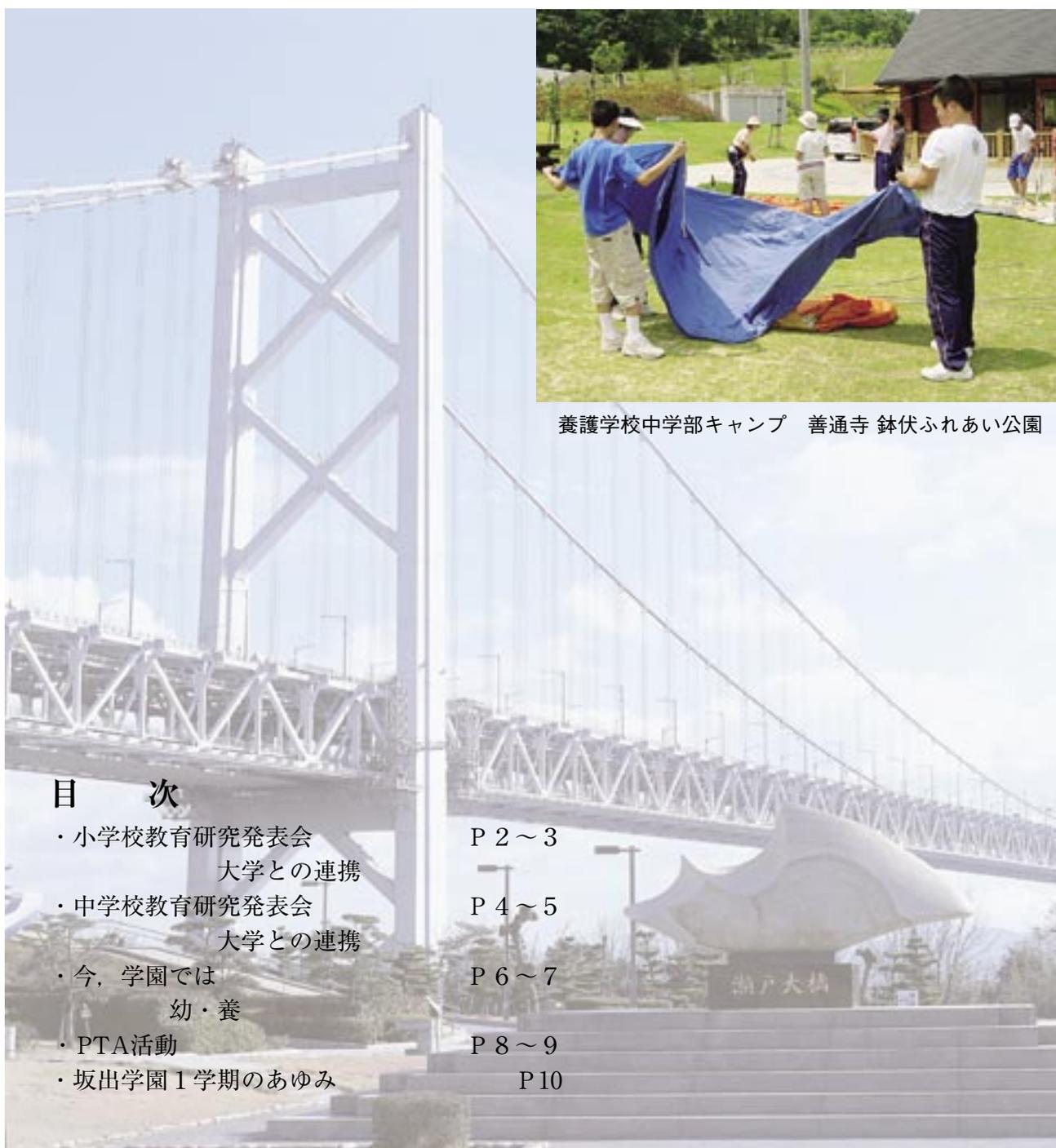


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第18号

2004.7



養護学校中学部キャンプ 善通寺 鉢伏ふれあい公園

目次

- ・ 小学校教育研究発表会
大学との連携 P 2～3
- ・ 中学校教育研究発表会
大学との連携 P 4～5
- ・ 今、学園では
幼・養 P 6～7
- ・ PTA活動 P 8～9
- ・ 坂出学園1学期のあゆみ P 10

21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上

—「思考力」の育成に向けて—

第88回教育研究発表会は、5月27・28日の2日間で、県内外より約800名の熱心な参会者を迎え、盛会裏に終えることができました。本年度の提案内容である「21世紀を切り拓く『確かな学力』の向上—『思考力』の育成に向けて—」について、本校は、各教科、未来学習（総合的な学習の時間）の授業公開並びに研究協議会、「思考力」を育成する朝学習の公開を通して提案いたしました。参会者は、いずれにも多大な関心を寄せており、熱心な討議が繰り広げられました。

また、1日目の午後は、ノーベル賞受賞者の東京大学名誉教授、小柴昌俊先生によるご講演、2日目の午後は、大阪市立大学の木原俊行先生、都留文科大学の鶴田清司先生、立教大学の奈須正裕先生、香川大学の川勝博先生をお招きしてのシンポジウムを開催し、大変貴重なお話やこれからの研究に対するご示唆をいただくことができました。

ここに、研究会の授業の一端をご紹介します。

社会科 「この道をたどれば —学校のまわりのようす—」（3年）

附属小学校を挟んで存在する「学園通り」と「貞光線」。この2本の道路について調べていると、自動販売機が多いことに子どもたちは気づきました。そこで、「もし、あと1台自動販売機を置くとしたら、どちらの道に置きたいですか。」という問いをもち、子どもたちは判断するための再調査にかかりました。土地利用の面、時間帯別の交通量の面、他の市町とのつながりの面、通行している人や車の面など、多面的な思考を働かせながら、自分の意見を構築しました。

そして、その考えを実際に業者の方に提案したり、業者の方の考えも聞いたりしながら、社会を見る視点を学んでいきました。



理科 「回れ！かいてき・しょうエネせん風機」（4年）

「先生、もっと電流を強くしてみてよ。モーターがもっと速く回るはずだよ。」

乾電池の直列つなぎは、電流が強くと、モーターを速く回すことができることを知った子どもたちは、電源装置を使って逆に電流を弱くしたり、直列つなぎの時よりも電流を強くしたりして電流の強さとモーターの回転速度の関係をより確かに捉えていきました。

また、2日目には光電池を直列つなぎにするとモーターが速く回るかどうかについても調べました。子どもたちは、電流が強くなるであろうという予想をイメージ図を描いて説明しました。



お礼



研究会の運営にご協力いただきありがとうございました。

P T Aの皆様には、交通案内や受付にご協力いただきまして、ありがとうございました。皆様のご協力のおかげでスムーズな会の運営をすることができました。

望ましいインターネット活用を

附属坂出小学校長 高井 忠昌



昨年度の「附フェスタ」の折に、「附属の子どもたちへ期待すること」として私の思いを話させてもらいました。子どもたちには、「学力」ばかりでなく社会に出て他人と協調しながら生活できる「思いやり」の気持ちを、学校生活の中で学んで欲しいと常々思っています。そのために、家庭内で子どもに手伝いなどの役割を与えて欲しいと思います。庭掃除、風呂当番や食事の準備、後片付けの手伝いなど身近なことでもいいと思います。自分の役割の重要性を認識することは、大きな自信につながるはずです。

最近小学生が話題となる事件が多くなりました。子どもを取り巻く環境が変化しているのか、子どもたちが変化しているのかは不明ですが、耳を疑うような事件が多く発生しています。その中でも長崎県の小6女児の事件には、大きな衝撃を受けました。それは、事件解明のなかで、インターネット上でのやりとりが大きな焦点

になっているからです。情報化が急速に進んで、親ばかりでなく、子どもたちもその利用方法をうまく見出せないのではないのでしょうか。もともとインターネットは、研究者の仲間でコミュニケーションをスムーズに行う手段として生まれたものです。それが、一般家庭にまで広がったために、著作権、個人情報保護、セキュリティ、有害サイトからの子どもたちの保護などが重要な問題となりました。しかし、インターネットはコミュニケーション手段の一つであることを忘れて欲しいと思います。親と子ども、子どもと子ども、親と親、親と学校、子どもと学校などのコミュニケーションが双方向で行える利点を生かして、子ども、学校、保護者の3者間の連絡を密にしてください。そうすれば、大きな事件に至る前にいろいろな対策や対応ができるのではないのでしょうか。

大学との連携

附属養護学校高等部の生徒さんとの運動ふれあい授業



香川大学教育学部 教授 山神 眞一

私は、平成16年3月5日(金)に附属養護学校の高等部の生徒さんと運動を通して、ふれあい時間を過ごしました。生徒さんとは、事前に1度授業を参観したときに顔を合わせたのみでしたし、養護学校の生徒さんと直接的に関わるのも初めてだったこともあり、不安と緊張が入り混じった心境であったように記憶しています。しかし、高等部の猪熊・多田両先生はじめ関係の先生方のご支援もあって、私自身その日が来るのが待ち遠しく思えました。

“運動指導を通して、何か生徒さんと共有、共感できるものを見出したい”そのことを念頭に指導内容を吟味、検討しました。指導経験のない私がどのように生徒さんに関われるのか、信頼関係もできていない私がどう接していけるのか、色々と思いを巡らせました。そこで、行き着いたのが“心を込めて接する”ということでした。これまで、幼児から高齢者まで、幅広い年齢層に対する運動指導経験はあるものの、養護学校の生徒さんと向き合った経験は皆無でした。その意味からも高等部の生徒さんに、この“心を込めて接する”とはどのような接し方になるのだろうか？正直、悩みました。そこで、高等部の生徒さんのいろいろな現状をお聞きし、運動に対して好意的な生徒さんが多く、運動への興味関心が高いクラスであることもわかりましたので、ソフトにみんなで楽しめる運動遊び的なものをすることに決めました。

さあ、授業開始です。男女で20名。大きな動き、素早い動き、巧みな動き等色々やってもらいました。テニスボールやソフトバレー、もっと大きなセラピーボールを使った遊びもしました。やり方がわからないときには、お互いに教えあったり、アドバイスをしていました。運動能力の個人差もみられましたが、今ある自分の力でやってみようとする意欲の高さには、私の方が驚かされました。チームプレイの遊びでは、互いに競い合うムードも高まり、熱気ムンムンでした。最初、少しおとなしそうな何人かの女子生徒も歓声をあげて、楽しんでいました。最後は、歩き方を伝授しましたが、背筋を伸ばして視線をさげない歩き方をみんなマスターしました。

そして、あっという間にお別れの時がきました。生徒さんの代表から私にプレゼント。手づくりのコップとコースターでした。まさに“心の込め”プレゼントでした。今回のふれあい授業は、“心を込める”ことの大切さを生徒さんから学んだ貴重な体験でした。今もそのときの清々しい感覚が心の奥底に残っています。ありがとうございました。



研究主題

豊かな学びを育むトータルカリキュラムの創造
—「自己育成力」の活性化を中心とした授業改革をめざして—

平成16年6月10日(木)、附属坂出中学校教育研究発表会が盛大に行われました。当日は、県内外の小・中・高、大学及び教育関係諸機関より500人を超える参会者をお迎えして、本校の教育実践をご覧いただくとともに、取り組んで参りました研究を広く全国に発信し評価をいただきました。

今回の研究発表では、文部科学省の研究開発学校の指定を受けて研究推進しております教育制度「5・4制」の妥当性検証も含め、中学校を4年間とした場合の教科カリキュラムをどのように編成していくべきか、そして、必修教科・選択教科・総合学習といった指導領域を、いかに系統的かつ合理的に構造化していくかといったトータルカリキュラムを提案しました。

また、授業の展開においても、「自己育成力」という言葉で定義付けした学習能力を活性化するための授業展開を追究し、自己の学びの状況を的確に把握する場面の「対象化」、さらに、他との比較における学びの広範化を目的とした「相対化」を授業の中に位置づけ、生徒一人一人が、自己の学習状況を的確に認識し、深化・拡充させながら今後の学びの方向性を見極めさせる学習構造を提案しました。

【総合学習「まんでがん」のパネル発表及び研究授業】

まんでがんでは、小6・中1合同の「まんでがんⅠ」と中2・3合同の「まんでがんⅡ」において、その構造と年間を通した学習の進め方を理解していただくために、半分のコースが体育館でパネル発表を行い、そして、もう半分のコースが実際の授業を参観していただきました。教科で培った学びが、知性として統合されていく本総合学習は、今大会の話題の一つであり、「まんでがんⅠ」での問題解決における基礎力の育成、「まんでがんⅡ」での学びの自己評価に基づく生きる力の追究において、参観者の方々から多くの質問を受け、その関心の高さを実感しました。生き生きと学習に取り組む生徒の笑顔が、参加者の方々をより惹きつけたようでした。

【教科研究授業】

各教科、2本の研究授業を公開しました。「豊かな学び」を創造するために、自分の学習状況を的確に認識しながら、自己の学びを自分の力で創り上げていく授業展開を提案しました。また、「5・4制」の研究より、中学校で学ぶ小学校6年生の理科の授業、さらに、小6・中1合同の保健体育の授業も多くの参観者の興味を惹くものでした。新聞やテレビでも報道され全国的にも話題性の高い実践として注目を集めました。



小6中1合同バレーボール



【体育館でのパネル発表】



まⅡCコース「自己の感情表現」



中学校での小6理科授業

演題 「小中一貫カリキュラムによる生涯学習力の形成」

筑波大学教育学系 教授 田中 統治先生



ご講演には、英国を中心としたヨーロッパの学校カリキュラムに精通し、社会教育学の立場から日本の学校カリキュラム研究をリードする筑波大学教授、田中統治先生をお招きし、「小中一貫カリキュラムによる生涯学習力の形成」と題して、生きる力を育むための系統的、総合的なカリキュラム編成の在り方について、本校のカリキュラム編成を例に取りながら、熱く語っていただきました。本校が提

案するトータルカリキュラムにおいても、高い評価をいただいております。「全国をリードする研究として、これからも自信をもって研究を進めてください」と心強いエールのお言葉をいただきました。

今回の発表は、21世紀の新たな教育を創造するための大きなビジョンのもと、過去の研究実績の上に、更なる第1歩を踏み出した研究となりました。4校園で学ぶ附属坂出学園の園児・児童・生徒たちが連続した学びの中で、豊かな知識と人間性を身につけることができる教育の実現を目指し、その中で中学校の取り組みを具体的に公開できたことは大きな成果であったと思います。小学校6年生の児童の皆さんや各校園の諸先生方、そして保護者の皆様のご理解とご協力を得ましての発表に深く感謝いたし、これからもこの実践を坂出から全国に発信していきたいと思っております。ありがとうございました。

大学との連携

香大附属方式による特別支援教室の開所式が開催される



16年5月29日(土)に、本教室にて開所式が行われました。ここには、香川大学学長の木村先生、教育学部長の加野先生を始め管理委員会の先生方や、前学長の近藤先生や前教育学部長の妻鳥先生も参加していただきました。また、保護者と本人もたくさん参加され、60名を越す参加者があり、盛大に開所式を祝うことができました。



ここでは特別支援教室の愛称を披露することとなり、看板の除幕式も行われました。その名前は、「すばる」と名付けられました。命名していただいたのは、東京国立近代美術館館長の辻村先生です。「すばる」という星から名前を取った意図について、メッセージをいただき、本教室にかよってきている子どもたちのことを思って、名前を付けていただいたことがよくわかりました。

また、当日は、新聞社や放送関係者もたくさん参加し、開所式の様子を新聞やテレビ放送もされました。

その結果、新たな申込希望者も増えてきています。まだまだ、一般社会には「特別な支援を必要とする子どもの存在」は知られていないのが、現状のようです。今後は、個別の支援の充実はもちろんのこと、教育関係者・保護者・地域の方にも「すばる」の啓発に努め、この子らの理解と支援の輪が広がるよう努めていきたいと思っております。



親子で“命”について考えよう

性の指導は、小さい頃からの指導の積み重ねが大切です。本園では、3年前、幼稚園から中学校までの養護教諭が、12年間を視野に入れた指導計画を作成しました。しかしながら、性の指導は保護者にとっても気になる内容であり、かつ保護者との連携を欠くことはできません。そこで、地域で性教育の出前講座を精力的に行っている助産師さんに相談し、チームを組んで指導することにしました。特に、「親子で命について考えよう」は、受精から出産までの命の営みを知り、誕生の喜びを感じることをねらった内容です。その中に出産の疑似体験も取り入れるため、事前に助産師と研修を重ねました。その上で、今年も保育参観日に合わせて実施しました。



家庭での子どもの反応

- 家に帰るとすぐに、「へその緒、見せて」と待ち構えたように言ってきました。
- 「おかあさん、うんでくれてありがとう」と書いていました。
- 赤ちゃんが生まれそうな時はびっくりしたようです。でも、赤ちゃん人形を抱っこできたのが楽しくて、少し重かったと言っていました。



保護者の感想より

- 今まで子どもに詳しく話したことがなかったので、楽しい雰囲気の中で話をスタートできてよかったですと思いました。同時に、親としても「この子」の存在の大切さを思い出させてもらったよい機会だったと思います。
- 子どもが興味をもっているにもかかわらず、どう対応してよいか分からない部分があったので、向き合って話せばいいということが分かりました。親の応え方も変えていかなければならないなと感じました。
- 子どもにもわかりやすい内容で、なぜ性器を清潔にしなければいけないかがわかったようです。



指導を終えて

幼稚園では3年前から性に関する指導を身体計測などの機会を捉えて、絵本や紙芝居、ペープサートなど、視覚に訴える教材をたくさん用いながら少しずつすすめています。子ども達にとって、自分の命の始まりがわかりやすく、無理なく自然に理解できる内容になるようになって欲しいと願いながら、これからも継続していこうと考えています。



■ ティーボール大会県3位！

養護学校では対外的なスポーツ大会に積極的に参加しています。県内養護学校5校対抗の形で、5月にティーボール大会、7月に水泳大会、2月に駅伝大会が行われ、また施設・作業所も参加して9月にスポーツ大会、1月に卓球大会と各種スポーツ大会が盛んに行われています。去る5月21日(木)に香川県養護学校ティーボール大会が三豊総合運動公園にて開催されました。結果は惜しくも準決勝で敗れ第3位となりました。

これらの大会参加に向けて養護学校では、朝の始業前には持久走を行って基礎体力の向上に継続的に努め、放課後は部活動として大会に向けた各競技の練習で技術面の向上を図っています。このように、年間をとおして同じ競技の練習をするのではなく、季節に合ったスポーツに取り組んでいます。

一方、障害者のスポーツ界全体として競技性を重視する取り組みも活発になっています。昨年より水泳と陸上競技の記録会を行い、全国障害者スポーツ大会の出場選手を選考するようになりました。そして、今年度は埼玉で行われる「彩の国まごころ大会」に、本校高等部3年の井上和也君が陸上競技の50mと100mに参加することになりました。



■ 平成16年度 放課後活動はじまる



スポーツや大衆演芸、音楽や美術の芸術、料理教室や園芸等の広い分野から、県内はもちろん世界的に活躍をしている方々を迎えて、活動しています。本年度は年間6回を予定しています。

《第1回目》5月25日

ドイツから帰国中のクラリネット奏者、千田恭子氏によるミニコンサート。約50名の聴衆が集まり、楽しい曲を聴いたり歌ったりしました。

《第2回目》6月22日

国分寺町の川崎氏を迎えての、ストリートオルガンによる演奏会と演奏体験を楽しみました。今後、マリンバの演奏会や料理教室、スポーツなどを予定しています。

■ ふれあいいっぱい 春季運動会

5月16日、外は雨。かさをさして登校してきた子どもたちや保護者の方が口々に、「きょうの運動会は、体育館やなあ〜。」と残念そうな顔……。狭い体育館での運動会は少々不安もありましたが、子どもたちの笑顔や卒業生、交流学校のお友達、そして保護者の方々からの温かい声援に支えられて、とても思い出に残る一日になりました。

今年初めての小学部一年生も、ほら、高等部のお兄さんといっしょのデカパン競争にわくわく・ドキドキ……。ふれあいいっぱいの運動会にみんなにこにこ顔でした。





ウエンディの会の活動で、幼稚園2階の図書室の本を、本の分類、整理、貸し出しのシステムを整えだしてから10年がたちました。毎週水曜日の子ども達、お母さん方への本の貸し出しを楽しみにしている方も多いと思います。しかし本は増える一方、収納に困ってました。今年、新しく大きい本棚を保護者に寄付していただいたのを機に、久しぶりの本の大整理を行い、より子ども達に分かりやすく借りやすい図書館になりました。子ども達も落ち着いて本を選んでいると好評です。

学校安全委員会ってなあに？

今年度から新しく「学校安全委員会」というPTA組織が小学校にできました。この委員会では一体どんなことをするのか委員会の多田羅さんに聞きました。

Q. 学校安全委員会とはどんな組織なのですか？

A. 委員会のメンバーは1年生から6年生まで各クラス一名ずつの計12名の常任委員と、松韻会の役員、学校の担当者で構成されています。

Q. 学校安全委員会では、どんなことが話し合われるのですか？

A. 子どもを取り巻く環境が劣悪になってい昨今、さまざまな事件や事故、災害などから子どもたちを守るために、私たち保護者ができることを話し合い、行動に移していきます。安全ということを大きくとらえて、家庭と学校、地域社会とも連携して総合的に勤めていきます。

Q. 具体的には今年度どのようにすすめられますか？

A. 先日6月17日に第一回目の委員会があり、各委員さんから活発な意見が出され、初年度にあたる今年は以下のような方向で委員会をすすめていくことになりました。

- ①子どもたちや保護者の安全に関する意識を探る
子どもたちや保護者はどんな場面、どんな時、どんなことを危険と感じているか、また感じていないか
- ②子どもたちや保護者の安全に対する意識の向上をはかる
子どもたちや保護者の安全に対する意識を高めるためにどういうことができるのか
- ③危機管理ハンドブックをつくる
事件、事故、災害が起こったとき、どのようにして正しい知識をすばやく伝えるか

委員会では、以上の3つのことを柱として、できることから行動を始めようと考えています。すでに保護者の皆様にはアンケートをお配りして、ご協力をお願いしているところです。このアンケートの結果を含め、今後の委員会の活動に関しては随時皆様にお知らせしていきます。痛ましい事件、事故の情報が氾濫する中、かつては考えられなかったような危険が子どもたちの身の回りにあふれています。より多くの方のご意見、ご協力を得て、子どもたちの安全を皆様と一緒に守っていききたいと思います。

6月1日・3日、母親部会主催で、トイレ用のポプリのサシュと、卵の殻のポプリづくりを行いました。一日の長い時間を過ごす学校の空間を、少しでもなごみのある、あたたかいものにして、学校の美化、環境整備に協力したいという、保護者の想いが実現しました。オーガニックの布やリボンを使ったり、卵の殻にハギレを使ったりとお母さん達のアイデアとセンスで、かわいい作品が次々に出来上がりました。一針、一針でいねいに縫ったり、はったりと、お母さん達の優しさが満ちた作品でした。製作中は、日々の子育ての情報交換や交流の場にもなりました。中学校の3年間、子ども達は、思春期になり心身共に急激な変化があり、親達も戸惑う事がしばしばあります。加えて、最近のインターネット、メール等、子ども達をめぐる新しい問題も起こっています。今回のような場が保護者同士の子育ての情報交換や意見交換、相談の場になり、保護者間の優しいネットワークが広がればと願います。

ポプリ作り



土曜クラブ

今年度初めての土曜クラブが去る5月15日盛大に行われました。



今回の土曜クラブはいつもの趣向を変え「新小学1年生と保護者の為の歓迎パーティー！」でした。

附属学園は広域からの入学のため、入学時の不安や戸惑いが多いかと思えます。そこでまずは親子の顔をお互いに知ること、少しでも早く学園に馴染んでいただこうと、土曜クラブ担当者全員が知恵を絞って手作りパーティを企画しました。

親子で遊べるゲーム、アート風船作り、輪投げ等、またおいしい『名物ふぞく鍋』を用意し、みんなで食べながら楽しい会話・交流が出来たと思います。当日は天候にも恵まれ、参加者は105名も集まって頂きました。少し余ったふぞく鍋は部活動をしていた中学生のお腹に収まりました。最後になりましたが先生方や先輩保護者のかたにも色々な面でご協力を頂き大変ありがとうございました。

またこの記事が配布される頃の7月17日には2回目の土曜クラブ『流しそうめん大会』が開かれています。きっと夏休み前の楽しい思い出に、なっていることでしょう。



Sports

- 6月27日／坂出市立体育館
- 市Pソフトバレーボール大会

幼稚園男子準優勝 (笑)

他幼小中8チーム予選敗退 (涙)

昨年は優勝！今年は準優勝！
強いぞ！幼稚園！わがさ？



ECOLIFE 通信

4月22日 P T A 総会で回収品の販売をしました。また、今年度の回収も授業参観日を中心にはじまっていますので、今後ともエコ活動へのご理解、ご協力よろしくお願いたします。



松韻会活動に対するご意見やご感想をお知らせください。今後の活動に役立てていきます。syoinikai@hotmail.com迄

「NEW親和会にないました」

親和会会長 大内 邦子



附属養護学校には、昨年まで親和会 (P T A) と育成会 (保護者会) が存在していました。このたび両会を一本化し、さらに全員参加型の組織に改変致しました。本部と五つの部会 (文化部、行事部、運動部、研修部、渉外部) によって組織され、保護者はいずれかの部会に所属し、各部が積極的に事業を展開していきます。

NEW親和会の特色は、部会化にしたことにより個人にかかる負担を平等にできる。次期会長は本年度副会長・次期部長は本年度副部長がすると定めている為、今後の組織展開の見通しがきく、今までのように誰かがやってくれるP T Aではなく、所属している部会活動は部員全員で活動します。

大学の法人化によって子供たちを取り囲む環境は激変しています。ここは、力を併せて踏ん張りましょう。

養護学校



5 年生屋島集団宿泊学習（6月22日～6月23日）

台風一過、青空の下、屋島集団宿泊学習が行われました。焼き板作り、キャンプファイヤー、いかだ作り等、友達と力をあわせることの大切さを学びました。



不審者想定避難訓練

7月2日、運動場東門から2年教室に不審者が進入したとの想定で訓練が始まりました。坂出警察署員の方に支援を頂きながら真剣な表情で、てきぱきと対応できていました。



青組の園外保育

青組は、一年を通じてよく園外保育に出かけます。一学期の園外保育を紹介します。

4月7日◆角山登山。ちょうど桜の花も見頃。ずっと続く山桜のアーチはそれぞれ圧巻で、「きれい」と思わず歓声が。登山中のおいしいさんから、小さいたけのこのおみやげをたくさんいただきました。

4月27日◆海上自衛隊護衛艦「いかづち」見学。林田港内での一般公開にあたり、保護者とともに船内見学をしました。花束贈呈に始まり、記念写真も一緒に撮らせていただきました。ヘリコプターが離着陸できる甲板、高い場所にある操縦室、迷路のようにしている船内の通路や階段、護衛の設備。おまけに食事室も見せていただき、子ども達にとっては記念の一日になりました。

5月10日◆丸亀城散策の予定が雨にたたられ、丸亀市立猪熊美術館で急遽、絵画鑑賞。



6月29日◆磯の生き物に親しむことを目的として、海岸市の浜辺を探索。



7月7日◆伝統的な七夕蹴鞠を見学に金比羅さんへ。

小学校

幼稚園

歯科衛生指導が 行われました



歯科医師、歯科衛生士さんをお招きして個別に歯磨き指導をしていただきました。エプロンシアターでも分かりやすく口の中の衛生のお話しをしていただきました。

養護学校

第1回漢字検定（6月12日(出)）

本校を準会場として、中学部2名、高等部7名の皆さんが漢字検定に挑戦しました。宿題などで一生懸命勉強してきた9名のみなさん、とても真剣な表情で検定に取り組んでいました。教室内はしーんと静まりかえっていました。10月に第2回の検定を予定しています。



中学部1組宿泊学習（6月10日(木)）

キャンプに向けて夕食は自分たちで作りました。お米とぎも上手になりました。

中学校

中学校では、6月25日（金）次の各テーマで総合学習「現代的課題領域【まんでがん】」

のフィールドワークを行いました。

【まんでがんⅠ】（小6と中1）

1コース「香風園にて背景画像をゲット」/2コース「街の外国語を採集しよう！（サティ、VIVRE、アルペン、マルヨンなど）」/3

コース「本物の発電現場で学ぼう（四国電力坂出發電所）」/4コース「省エネの実際を見学しよう（四国電力、水道局、役場など）」

【まんでがんⅡ】（中2と中3）

Aコース「友だちをより知ろう！（番の州公園）」/Bコース「外国人とのコミュニケーション活動（アイパル香川と香川大学）」/Cコース「自己の感情表現を模索しよう！（香風園など）」/Dコース「メディアのプロに学ぼう！（KBNとサティ）」/Eコース「地域の環境（公園）をチェックしよう！（香風園、御供所公園など）」/Fコース「人が生き物に与える影響～人はどこまで近づけるのか～（角山頂上）」…あいにくの雨模様でしたが、生徒は自己課題の解決に向けて真剣に取り組んでいました。



サティで広告の工夫の情報を集める生徒たち



人と生き物の距離を明らかにしようとしている生徒たち

編集後記

香川大学が法人化され、平成16年度がスタートしました。前号では、加野教育学部長先生より法人化になって「先生方の身分が変わる」「6年間の中期目標・中期計画による教育活動を推進すること」「学長のリーダーシップのものと運営」の3点について、変化と共に今後の附属校園の自主性や自立性の拡大を希望されていました。

本年度は、小学校・中学校が教育研究大会を開催し、21世紀を切り開く「確かな学力」の向上を目指したり、また5・4制の教育改革に向けて実践を報告したりしました。保護者・教員が一体となって皆様方のご指導・ご意見を賜りつつ附属坂出学園の自主・自立性を推進して参りたいと思っております。

発行年月日：2004年7月20日

発行事務局：附属坂出小学校内

編集担当者

塩田 知子（附属幼稚園）

西浦 雅弘 森田 浩文（附属坂出小学校）

山田 知志 十川 裕史（附属坂出中学校）

斎藤 恵子 岩本 豊（附属養護学校）